

中村仁信：(日本放射線学会理事・元大阪大学教授)

「低線量の被曝なら、むしろ健康に良い。累積で 1000 ミリシーベルトであってもおそらく大丈夫」

(3月・4月 「読売テレビ」)

■■勝手な放言！1シーベルトで大丈夫??急性障害間違いなしでしょう！

宮崎慶次：(大阪大学名誉教授)

「地震動としては 400 ガル程度で、福島原発が想定する基準地震動 600 ガル以内であり、原子炉は停止した。問題は、津波が想定を上回ったこと」

「経済性に優れ、CO2 排出量の少ない原子力は、今後も推進すべき。 そうしないと日本は電力不足で日常的な生活への支障と経済活動の停滞により文明や社会が大いに後れをとることになる」

(「アエラ臨時増刊・原発と日本人」5/15 日号より)

■■問題を〈津波〉のせいにして、矮小化している。少なくとも一号機は、〈地震〉により配管が損傷して、冷却材喪失事故が起きたのではないかと田中三彦さん(元原子炉製造技術者)は指摘している。放射能の被害より電力不足を心配する考えにはついていけない。原発震災が進行しているいま、原発のどこが「経済性に優れ、CO2 排出量の少ない」のだろうか！原発以外の電力で全く問題ないのだが、御用学者には他の選択肢は見えないようだ。